

## 平成 28—29 年度指定管理鳥獣捕獲等事業(イノシシ)の事業評価(案)

## 平成 28 年度指定管理鳥獣捕獲等事業(イノシシ)の評価

## ○指定管理鳥獣捕獲等事業の達成状況の評価について

1. 捕獲に関する評価及び改善点	
【目標達成】	<p>評価：(成田) 目標 12 頭に対して実績 12 頭 (100%) であり、捕獲目標を達成した。</p> <p>(長生) 目標 60 頭に対して実績 41 頭 (68%) であり、捕獲目標は達成できなかった。</p>
	<p>改善点：成田地域は目標を達成していることから、これまでの捕獲効率を踏まえ、平成 30 年度の目標を設定する。長生地域においては目標を達成できていないため、事業の改善点や時期別の捕獲効率を踏まえ、平成 30 年度の目標を設定する。</p>
【実施期間】	<p>評価：(成田) 1 月から 3 月にかけて、40 日程度捕獲を実施した。捕獲期間は実施計画よりも短かったものの、捕獲目標を達成した。</p> <p>(長生) 11 月から翌年 3 月にかけて、実施計画のとおり 90 日程度捕獲を実施したものの、目標の達成には至らなかった。</p>
	<p>改善点：事業の性質上、実施計画で定めている捕獲期間の大幅な延長は難しいため、実施時期を検討し、効率的かつ効果的に捕獲を行う必要がある。</p>
【実施区域】	<p>評価：(成田) 香取地区は捕獲数が多く、メス成獣の捕獲割合も高かったため、分布拡大の防止に効果的な地区であったと言える。</p> <p>(長生) メス成獣の捕獲割合が高かったため、分布拡大の防止に効果的な地区であったと言える。</p>
	<p>改善点：平成 30 年度は分布拡大の防止を図る上で効果的な地域において、集中的に捕獲を実施する必要がある。</p>
【捕獲手法】	<p>評価：(成田) くくりわな、箱わなによる捕獲を実施した。捕獲個体のうち成獣メスが占める割合は 41.67% と高い値であった。</p> <p>(長生) くくりわな、箱わなによる捕獲を実施した。捕獲個体のうち成獣メスが占める割合は 36.59% と比較的高い値であった。</p>
	<p>改善点：捕獲目標が達成できるようにわな基数の増加を検討するとともに、成獣メス個体がより多く捕獲できるようにわなの運用を工夫する必要がある。</p>
2. 体制整備に関する評価及び改善点	
【実施体制】	<p>評価：成田地域及び長生地域とも 2 名 1 組体制で各地区に 1 班を配置し</p>

	適切に捕獲を実施した。
	改善点：継続して実施する。
【個体処分】	評価：焼却処分等により適切に処分した。
	改善点：継続して実施する。
【環境配慮】	評価：苦情もなく適切に実施された。
	改善点：継続して実施する。
【安全管理】	評価：作業は 2 名 1 組体制とし、わな本体及び周辺に注意喚起の標識を設置することで捕獲作業者及び実施区域周辺の利用者の安全に配慮した。
	改善点：継続して実施する。

### 3. その他の事項に関する評価及び改善点

幼獣、成獣の判断基準がウリ模様の有無であるが、ウリ模様の消失時期は個体差が大きいがわかっている。ウリ模様よりも個体差が小さく、なるべく簡易な判断基準を設ける必要がある。

また、自動撮影カメラ調査により、イノシシの生息状況を詳細に把握することができたものの、調査結果のとりまとめに時間を要したことから、調査結果を捕獲作業に反映することが困難であった。このため、イノシシの生息密度モニタリング手法の技術開発、及びモニタリング結果の捕獲作業への迅速な反映が今後の課題である。

### 4. 全体評価

目標捕獲数は成田地域では達成し、長生地域では達成できなかった。ただし、両地域とも前年度と比較して捕獲実績は増加し、低密度地域での捕獲事業の経験やノウハウの蓄積による事業成果の改善がみられた。一方で、密度指標の低減には至っておらず捕獲数の不足が考えられるため、さらなる捕獲の強化が望まれる。

平成 30 年度は、これまでの捕獲効率等を踏まえて捕獲時期の検討を行うとともに、密度指標の低減を確実に実現するよう、捕獲区域の見直しやわな基数の増加等により、捕獲を強化する必要がある。

※「改善点」の欄には、評価結果を次期の指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画にどう反映するか等について記入する。

### ○第二種特定鳥獣管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

特定計画では、農作物被害の抑制、生活環境被害の抑制、生息域の拡大防止を目標しており、本事業では生息域の拡大防止を目的に、イノシシの分布域外縁部において捕獲を実施した。

成田地域では、全捕獲数（狩猟、有害、指定）に占める本事業の割合はおおよそ 11%、香取地区に限定した場合は、本事業の割合は 50%であり、成田地域では本事業の貢献が大きいと言える。一方で、長生地域では全捕獲数に占める本事業の割合はおおよそ 5%と限定的で

あった。

捕獲数という観点からみると、成田地域と比較して長生地域における本事業の貢献の程度は限定的であるが、捕獲個体のうち成獣の割合は95%、うち成獣メスは41%と高い値であったため、分布拡大地域での個体群の増加抑制に一定の貢献をしたと言える。

ただし、両地域ともに密度指標の低減がみられず捕獲圧は不足していると考えられるため、特定計画の目標達成のために、さらなる捕獲の強化を行う必要がある。

## 平成 29 年度指定管理鳥獣捕獲等事業（イノシシ）の評価

## ○指定管理鳥獣捕獲等事業の達成状況の評価について

1. 捕獲に関する評価及び改善点	
【目標達成】	<p>評価：（成田）目標 14 頭に対して実績 23 頭（164%）であり、捕獲目標を達成した。</p> <p>（長生）目標 66 頭に対して実績 27 頭（41%）であり、捕獲目標は達成できなかった。</p>
	<p>改善点：成田地域は目標を達成しており、今後もこれまでの捕獲効率を踏まえ、平成 30 年度の目標を設定する。長生地域においては目標を達成できていないため、事業の改善点や時期別の捕獲効率を踏まえ、平成 30 年度の目標を設定する。</p>
【実施期間】	<p>評価：（成田）6 月から 9 月にかけて、100 日程度捕獲を実施し、捕獲目標を達成した。</p> <p>（長生）7 月から 10 月にかけて、120 日程度捕獲を実施した。</p>
	<p>改善点：両地域とも、事業の性質上、捕獲期間の大幅な延長は難しいため、実施時期を検討し、効率的かつ効果的に捕獲を行う必要がある。</p>
【実施区域】	<p>評価：（成田）前年度までの結果から捕獲重点地域を選定した。目標捕獲数を達成したものの、密度指標の低減には至らなかった。</p> <p>（長生）実施区域を面的に網羅する形で捕獲を実施したが、捕獲目標は達成できなかった。</p>
	<p>改善点：平成 30 年度は分布拡大の防止を図る上で効果的な地域において、集中的に捕獲を実施する必要がある。</p>
【捕獲手法】	<p>評価：（成田）くくりわな、箱わなによる捕獲を実施した。捕獲個体のうち成獣メスが占める割合は 30.43%であった。</p> <p>（長生）くくりわな、箱わなによる捕獲を実施した。捕獲個体のうち成獣メスが占める割合は 55.56%と高い値であった。</p>
	<p>改善点：捕獲目標が達成できるようにわな基数の増加を検討するとともに、成獣メス個体がより多く捕獲できるようにわなの運用を工夫する必要がある。</p>
2. 体制整備に関する評価及び改善点	
【実施体制】	<p>評価：成田地域及び長生地域とも 2 名 1 組体制で各地区に 1 班を配置し捕獲を実施した。</p>
	<p>改善点：継続して実施する。</p>
【個体処分】	<p>評価：焼却処分等により適切に処分した。</p>
	<p>改善点：継続して実施する。</p>

【環境配慮】	評価：苦情もなく適切に実施された。
	改善点：継続して実施する。
【安全管理】	評価：作業は 2 名 1 組体制とし、わな本体及び周辺に注意喚起の標識を設置することで捕獲作業者及び実施区域周辺の利用者の安全に配慮した。
	改善点：継続して実施する。
<p>3. その他の事項に関する評価及び改善点</p> <p>幼獣、成獣の判断基準がウリ模様の有無であるが、ウリ模様の消失時期は個体差が大きいことがわかっている。ウリ模様よりも個体差が小さく、なるべく簡易な判断基準を設ける必要がある。</p> <p>また、自動撮影カメラ調査により、イノシシの生息状況を詳細に把握することができたものの、調査結果のとりまとめに時間を要したことから、調査結果を捕獲作業に反映することが困難であった。このため、イノシシの生息密度モニタリング手法の技術開発、及びモニタリング結果の捕獲作業への迅速な反映が今後の課題である。</p>	
<p>4. 全体評価</p> <p>平成 29 年度は従来実施していた冬季ではなく夏季から秋季にかけて捕獲事業を実施したところ、成田地域では目標捕獲数を達成できたが、長生地域では達成できなかった。</p> <p>成田地域ではこれまでと実施期間が異なったものの、わなの基数と稼働日数を増加させることで、捕獲目標を達成することができた。一方で、長生地域では、これまでと実施期間が異なったことや捕獲従事者が変わったことが、捕獲目標の達成に影響した可能性がある。</p> <p>両地域とも、密度指標の低減には至っておらず捕獲圧の不足が考えられるため、さらなる捕獲の強化が必要である。平成 30 年度は、これまでの捕獲効率等を踏まえて捕獲時期の検討を行なうとともに、密度指標の低減を確実に実現するよう、捕獲区域の見直しやわな基数の増加等により、捕獲を強化する必要がある</p>	

※「改善点」の欄には、評価結果を次期の指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画にどう反映するか等について記入する。

#### ○第二種特定鳥獣管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

特定計画では、農作物被害の抑制、生活環境被害の抑制、生息域の拡大防止を目標としており、本事業では分布拡大防止を目的に、イノシシの分布域外縁部において捕獲を実施した。

今後、年間をとおした捕獲結果を踏まえ総合的に評価を行う必要があるが、成田地域では、これまで捕獲がほとんど実施されていない地域で捕獲を実施し、複数頭を捕獲していること、長生地域ではメス成獣の捕獲割合が高かったことから、分布拡大域での個体群の増加抑制に一定の貢献をしたと言える。

ただし、両地域ともに密度指標の低減がみられず捕獲圧は不足していると考えられるため、特定計画の目標達成のために、さらなる捕獲の強化を行う必要がある。